

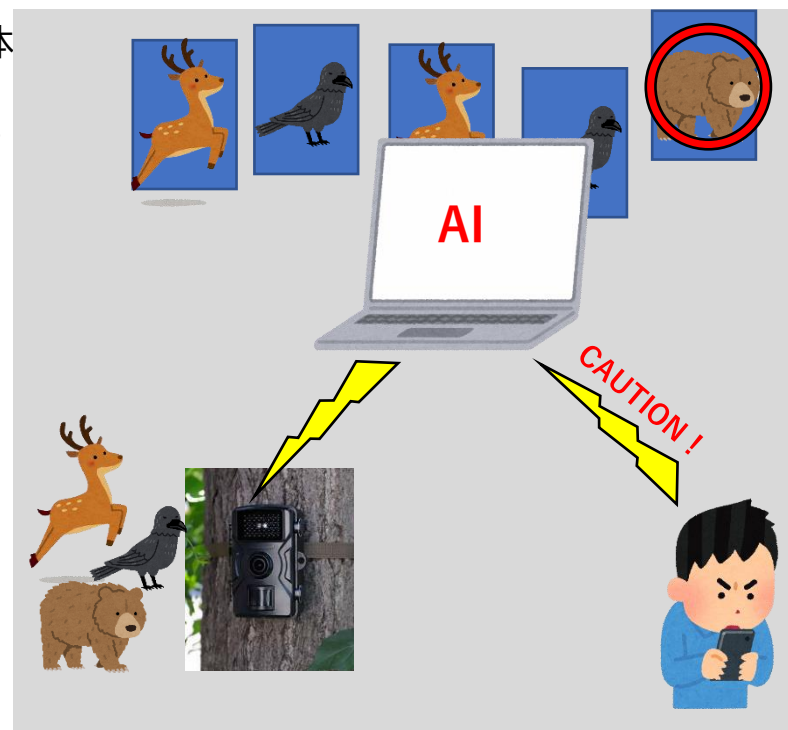
# 令和6年度 羅臼町獣害対策事業

デジタル田園都市国家構想交付金活用事業

事業名	ヒグマ出没早期警戒システム構築	事業費	2,871千円
主体	羅臼町役場（協力：知床財団）		
事業概要			

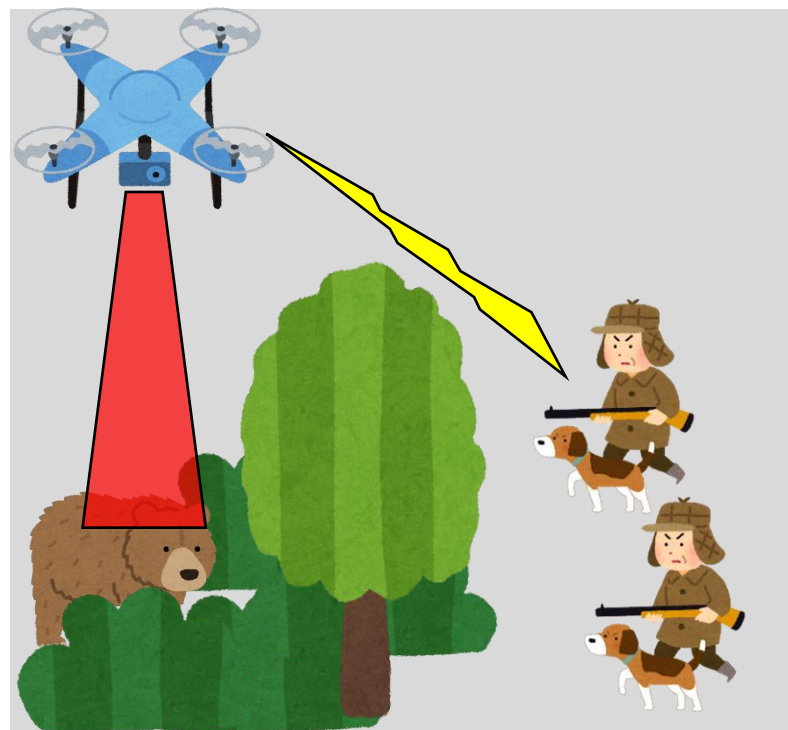
①過年度のヒグマ出没状況やヒグマの痕跡を基にセンサーカメラを設置。撮影された画像のうちAI技術を活用してヒグマ画像のみ抽出。これらの情報が瞬時にもたらされることで早期にヒグマの出没を認識することが可能となり、住民生活への被害発生前に追い払いや捕殺を行う。

②得られたヒグマ画像は蓄積しておき、次のステップとなるヒグマの個体識別を確立するための研究開発に資する。ヒグマ個体識別が確立されれば、撮影されたヒグマのうち、特に問題となる個体の特定が可能となり、集中的な対策を講じることでより確実な被害防除が可能となる。

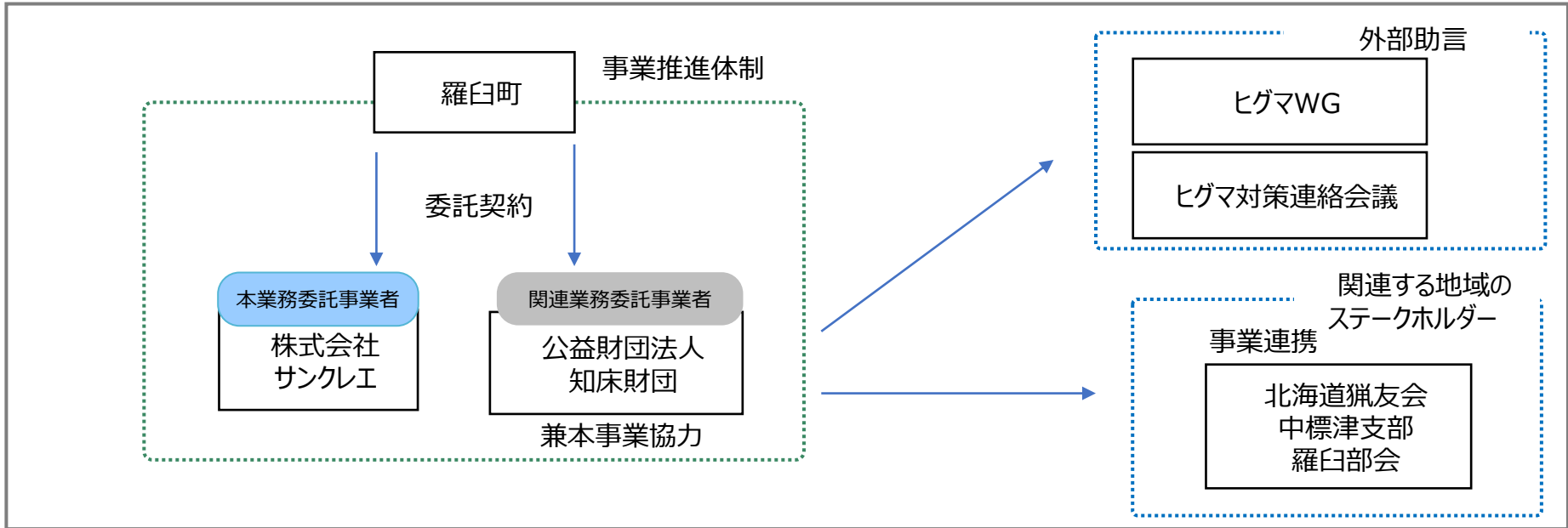


事業名	ドローンによるヒグマ等追い払い・捕殺補助システム導入	事業費	4,745千円
主体	羅臼町役場（運用協力：知床財団、北海道猟友会中標津支部羅臼部会）		
事業概要			

- ①ヒグマ出没時、赤外線カメラ搭載のドローンを活用することで、笹藪等に隠れて姿が見えない状況にあってもヒグマの位置を確実に把握する。
- ②ヒグマが忌避する音声をドローンから発出することでヒグマを追い払う。また、市街地や住宅地に隣接しているなど、特に危険度が高い場所に出没した場合あるいは過去に被害を及ぼした可能性が高いと判断された問題のあるヒグマに対しては、捕殺可能な場所まで追い立てる。
- ③捕殺対応時、手負い（半矢）状態が疑われる状況となった場合、ドローンを接近させることで対策員の安全を確保した状態で死亡確認を行う。
- ④巻狩り（エゾシカやヒグマ等の動物を射手の場所まで追い立てて捕獲する手法）を実施する際、巻狩り実施範囲における捕獲対象の有無を確認する。



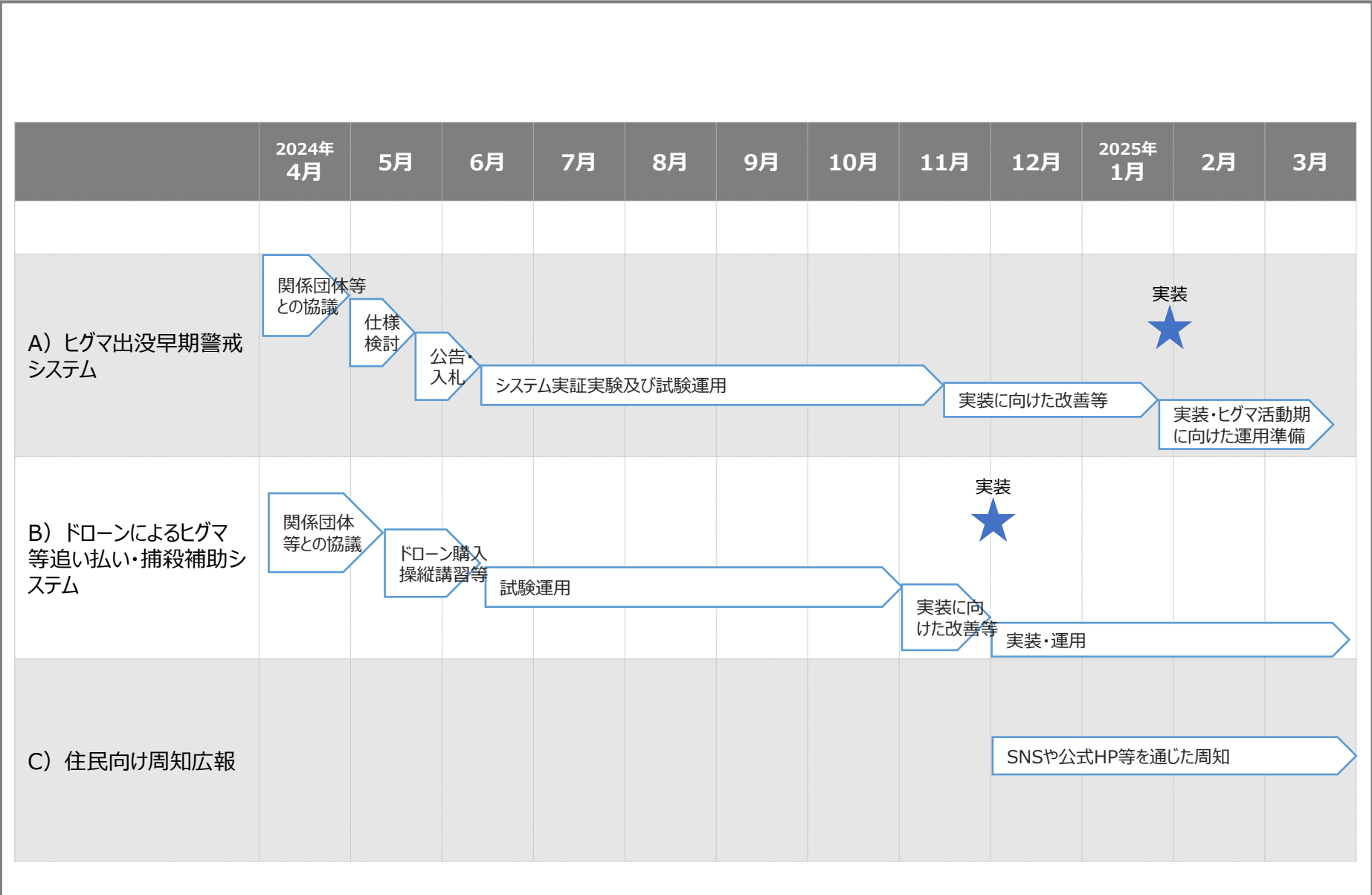
## ■ 事業推進体制



名称	役割
羅臼町	<ul style="list-style-type: none"> <li>事業計画の立案</li> <li>事業全般の管理</li> </ul>
株式会社 サンクレエ	<ul style="list-style-type: none"> <li>事業実施に係るノウハウの提供</li> <li>システムの実証実験・報告書作成</li> </ul>
公益財団法人 知床財団	<ul style="list-style-type: none"> <li>関連業務における本システムの運用</li> <li>現場対応業務</li> <li>事業周知の協力</li> </ul>
北海道猟友会 中標津支部 羅臼部会	<ul style="list-style-type: none"> <li>現場対応業務</li> </ul>

名称	役割

# ■ 実装計画（実装までのプロセス・スケジュール）



## ■ 運営計画（3カ年スケジュール）

	2024年度	2025年度	2026年度
ヒグマ出没早期警戒システム	AI画像解析システム実装	AIによるヒグマ画像抽出精度の向上を図る。	ヒグマ出没警戒重点箇所を設定し、より効率的な出没抑制を図る。
ドローンによるヒグマ等追い払い・捕殺補助システム	ドローン実装	操縦者の技術向上に努め、迅速な現場対応が可能な体制を構築する。	赤外線カメラや忌避音声に加え、新たな対策オプション（撃退スプレー等）の実装を検討する。
町民への周知広報	アプリ利用促進に向けたSNSや公式HP等を通じた周知		

## 羅臼町ヒグマ対策電気柵更新整備（金網柵＋電気柵複合型）の概要

平成26年から27年にかけて市街地区（船見町・栄町・緑町・本町）に設置した電気柵（金網＋電気柵複合型）について、雪害等により一部の区間が破損したことや設置から9年が経過し、全体的に老朽化が進んでいるため更新整備が必要となっている。また、町内全体の電気柵維持管理費用も大きな負担となっていることから、これらの財源として、ガバメントクラウドファンディングを活用した。



写真. 倒壊箇所の状況

### 結果

- ・ 寄付募集期間 令和5年12月15日～令和6年3月15日（90日間）
- ・ 延べ件数 1,628件
- ・ 寄付金額 33,806,900円 ※諸経費等を差し引いた半額が活用可能額

市街地電気柵の更新整備（25,427,000円）に16,903,000円を充当することができました。現在、更新整備工事中です。皆様からのご支援ありがとうございました。